カトリック高松教区報

２０１８年１１月４日（第１８７号）
発行所　カトリック高松司教区　広報委員会
〒760-0074　高松市桜町1-8-9
TEL 087-831-6659　FAX 087-833-1484
Email
教区：catholic-takamatsu@takamatsu.catholic.ne.jp
広報：tk-koho@mxi.netwave.or.jp
生涯養成：　yousei@takamatsu.catholic.ne.jp
WEB://www.takamatsu.catholic.ne.jp/

マザー・テレサの言葉
転がっている体、汚い衣服のうちに、人の子らの中で最も美しいキリストを見つけ出すために、私は信仰という目を使います。苦しみが刻み込まれた、この体にふれるには、キリストの両手が必要です。

最近の諸問題について

最近の当面する教区諸問題について、教区民の皆さんにご理解とご協力をお願いしたいと思います。２項目についてご説明いたします。

（1）司教座聖堂（桜町教会）の耐震工事

番町教会より独立した桜町教会（後の司教座聖堂）の聖堂が建てられたのが１９５８年（昭和33年）３月でした。

戦後、生きる道を照らし祝福を与え続けてきた日本各地の教会（聖堂）は多くの方々に信仰の実りを分かち合い、信仰の歴史を刻んでまいりました。しかし司教座聖堂も61年の経年ゆえ修復の時期を迎えています。とくに昨今、世界各地で発生する異常気象による大水害や地すべり、予想もつかない巨大地震と津波など、想定外の悲惨な状況に直面し、確固とした安全が求められております。

多くの人々が一同に会する聖堂の安全を確保するため、教区責任役員会は司教座聖堂（桜町教会）の耐震診断を行い、その結果、耐震補強工事を実施することを決定いたしました。

工期は今年の12月から約6か月間ですが、起工準備のため10月から聖堂の立ち入りが禁止されております。主日等のミサは四国会館・二階ホールを臨時聖堂として美しく整え、平日のミサは地下聖堂で捧げられております。

また番町教会との協力関係において、今後の教会の在り方をも同時に策定していきたいと考えております。

諏訪榮治郎司教

司教座聖堂を耐震本格工事
堅実な予算　教区民で支える姿勢を

隣接する桜町聖母幼稚園の教育に対していくつかの不便さを受け止めていただきながらも、園児のために安全を確保していきます。

工事内容は、天井の崩落防止、聖堂壁の補強、照明器具、電気配線の再構築、非常口設置などです。また、四国会館（司教館）の屋上防水なども図られる予定です。

高松教区内のいくつかの教会堂の耐震工事は終わっておりますが、心配な教会もあります。耐震に関する診断状況の報告を司祭助祭研修会（11月8日）にいただきたいと思っております。

教会が信徒のみならず、多くの方々に開かれた場であるためにより一層の安全策を講じていく所存です。それはまた、今後の教会の在り方を見定めることにもなると思われます。皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

（2）教区の財政問題について

次に、上記の安全面と同時に、教区運営のために財政面の確立が求められております。

中でも「司祭給与」の確保が優先課題となっております。来年度（２０１９年度）からは3年続いた大阪教会管区からの援助金、また教区内外の皆さまからの「教区献金」も終わります。

すなわち「司祭給与」は援助金や献金・遺産という、不確定な「臨時収入」からではなく、教区として確実に予算化する必要があります。

「司祭給与」に関する教区としての基本姿勢は以下の通りです。

①教区は「司祭給与」を不確定な献金や援助金からではなく、堅実な予算をたて「納付金Ｂ」を確立する。

②教区運営、宣教活動経費である「納付金Ａ」から司祭給与を流用しない。

③教区にあるすべての小教区が財政力に応じて分担し、公平に司祭給与「納付金Ｂ」を納め教区を支える（教会法1266条）姿勢を築く。

以上の基本原則から、この１年間、司祭給与「納付金Ｂ」の確立に向け、いかに公平に司祭給与の分担を担うかの課題にたいして、司祭評議会、宣教司牧評議会　経済問題評議会は検討を続けてまいりました。

各小教区からの「納付金Ｂ」額は、教区全体におけるその小教区の「信徒数」と「通常献金額」の割合に応じて計算される方向で検討が重ねられております。

この原稿執筆（10月14日）時点では最終的な結論は出ておりませんが、11月半ばに結論を出し、各小教区の代表の方々に説明会を持ちたいと考えております。

具体的なことは次号の「教区報」にてお知らせいたしますが、、地区ブロックなどでも意見を交わしていただきたいと思います。

重ねて皆さまのご理解とご協力をお願い申し上げる次第です。皆様の上に主の豊かな祝福をお祈り申し上げます。

司教　使徒ヨハネ
諏訪榮治郎

耐震工事で聖堂閉鎖
桜町教会　来年６月まで

桜町教会聖堂の耐震診断調査の結果、大地震に備えて耐震工事を実施することになりました。

聖堂内天井や側壁の崩落、聖堂南北外壁の崩落のおそれがあり、それら被害を防止するための工事を行います。

今年の春頃には、幼稚園の夏休みにあわせて工事開始ではないかとの情報がありましたが、諏訪司教様は、工事内容等について再検討するため、8月番町の司祭信徒数名で、耐震診断を実施した業者を交え、工事内容等について話し合いをしました。

その結果、11月中には実際の工事の設計図ができ、12月中頃には着工されることとなりました。工事期間は6カ月程で来年の6月末には完成の見込みです。

工事期間中、聖堂が使えないのはもちろんですが、着工までの期間も、万一の大地震発生時の危険性を考慮し、10月1日以降工事完了まで、聖堂は閉鎖されることになりました。聖堂が使用できない間、８時のミサと英語ミサは四国カトリック会館２階で行われます。

尚、10時のメインのミサは番町教会との合同で番町教会で行います。

四国会館２階仮聖堂での初めての主日ミサ

朗読奉仕者2人を選任
桜町教会　司教から聖書受け取る

9月16日（日）主日ミサの中で高松教区終身助祭候補者、小山一氏とR・Tウィリアムズ氏の朗読奉仕者選任式が執り行われた。

入祭、集会祈願の後に選任式が行われ、先ず、各々が朗読奉仕者選任を申請する意思の表明を行った。

それを受けて諏訪司教は朗読奉仕者の奉仕職について諭しの言葉を述べ、そのあと二人の申請者は朗読奉仕のシンボルである聖書を司教から受け取り、会衆の拍手の中、朗読奉仕者としての最初の奉仕として第一朗読、第二朗読奉仕を務めた。以下は朗読奉仕を申請した小山一氏の申請のことばである。

「使徒ヨハネ諏訪榮治郎司教様、わたし小山一は、いつくしみ深い神の恵みの中で、使徒ヨハネ諏訪榮治郎司教様をはじめ、多くの方々のお祈りとご支援に支えられて、今日まで助祭職への召命の道を歩んでくることが出来ました。心から感謝申し上げます。

さて、わたしは助祭職に向けてふさわしく準備していくために、このたび朗読奉仕者として選任を受ける申請をする時期を迎えています。

そのために、わたしは自分の召命について振り返りながら、神に祈り、熟考し、霊的同伴者と相談した上で、わたしの全く自由な意思により、カトリック高松司教区の朗読奉仕者に選任して頂きたいと切望しています。

どうか、わたしの望みを受け入れて下さいますようお願い申し上げます。

今後とも神の招きの声を心に深く受け止めて、助祭職への召命の道を全うするために、朗読奉仕者の務めを大切にしながら、必要な準備に励みます。

引き続き、お祈りとご指導を賜りますようにお願い申し上げます。」

２０１８年８月28日
アウグスチヌス
小山一

司教から朗読奉仕者のシンボルの聖書を受け取る小山氏（左）とT・Rウィリアムズ氏

はばたき

今年最後のコラムを書くにあたって、今年度の司牧書簡「社会と共に歩む教会をめざして」を読み返してみました。

『「何をする」という思いも大切だが、基本は日々、新たにされるという「自己」の福音化・霊性の滋養」を大切にすることにある。

貧しいながらも、道すがら与えられる出会いをとおして、福音宣教の奉仕を担っていくのではないか。』とあります。福音のよろこびは伝えなければならないではなく、伝わっていくものなのでしょう。

イエスは「ゆるし」と「いやし」のわざによって、父なる神の被造界への愛に満ちた世話を引き受け、その中に生きます。２千年前のイエスは慎ましい生活をされていたでしょうが、何より、神の賜物を互いに「分ち合う」生活をしながら、病人、身障者、やもめ、罪人、貧しい人々を優先されていました。

群がってきた人々のために、パンや魚を増やしたという話（マタイ14・15）は、イエスの生き方そのものだったのでしょう。

清貧は、個人的な修得のための苦行というより、人々が善きものを「分ち合う」徳だと言われています。

私たちもイエスに倣って全ての被造物への神の愛の道具として自分を分ち合いながら生きていきたいものです。

教会がイエスに招かれた全てのキリスト者の賜物を認め合い、分ち合い、活かし合い、協力し合って福音宣教へ向けて歩んでいくことができますように。

感謝のうちに。

高知で浦上キリシタン殉教者を偲ぶ

江ノ口教会での集合写真

9月17日朝8時、西讃ブロックの教会の信者一緒に高知巡礼の日帰りバス旅行に行って来ました。

美味しい昼食と楽しい仲間とのおしゃべり、実に有意義な1日でした。

明治3年1月から明治6年5月まで浦上キリシタンの信者116人が、長崎から高知藩へ流配され、39人もの病死者が続出した過酷な環境の中でも全員が信心を捨てず生き抜いた話しには、胸を打たれました。

昭和13年に田中英吉神父が私財を投じ建築した教会堂「江ノ口教会」は今まで訪れたどの教会にも負けない程、素晴らしく、居心地の良い和風教会でした。

ネルソン神父とホルへ神父のミサは、お声や聖歌が堂内にこだまして荘厳なミサになりました。是非一度訪れる事をお勧めします。

以前、高知・帯屋町のSC、ショッパーズ高知3階に宝石専門店を出店し、8年間暮らしましたが、自分自身初めて見聞きする事ばかりでした。

明治の世になっても、キリシタンに対して過酷な迫害があり、諸外国からの圧力で「信仰の自由」が確立された日本の歴史を知り驚きました。

最後に、この旅行を通じて各地区教会の信者数の少なさを知り、教会の信者を増やす為に、まず、もっと我々が危機感を持ち真剣に教会に来て頂ける「努力」と「話し合い」、そしてマニュアル作りが、今、必要だと感じました。プロテスタントや新興宗教に学ぶべき所も多いと思います。

今回資料作りなど、多田様他お世話下さいました皆様に心よりお礼申し上げます。有難うございました。

丸亀教会　松田勝義

過酷な迫害耐え教え守る

9月17日（月・敬老の日）に、坂出教会、丸亀教会、善通寺教会、観音寺教会、池田教会、そして新たに西讃ブロックのメンバーになった伊予三島教会の6教会で、高知県に巡礼に行きました。

ネルソン神父様とホルへ神父様と信徒合わせて33名の日帰り旅でした。旅程は赤岡教会→赤岡牢跡→国清寺→昼食→江ノ口教会を巡り、江ノ口教会でミサに与りました。

赤岡教会から赤岡牢跡まではロザリオを唱えながら行列しました。

キリシタン関係の本を読んだことがあったので、書いてあった座敷牢の劣悪な環境を思い出しながら巡礼しました。

江ノ口教会は綺麗な和風のお聖堂でキリシタンの日本画や蒔絵のご聖櫃等素敵でした。

中央の十字架のイエス像の胸筋が凄く上がっていて、十字架刑は呼吸困難で死ぬということを思い出し、イエズスの十字架の死について黙想する事ができました。

ロザリオ唱えながら巡礼

ミサでは神父様のお説教を聞いて、確かに昔の人は元々特別な人ではなく私とあまり変わらない普通の人間だよね、と考えさせられました。

私のような人もいたかもしれないし、牢に入ったのは今日一緒にいたメンバーみたいな感じかもしれないし、そんな時、私たちも同じ選択をするだろうか、と思いました。

勇気の度合いは分からないけれど、遠い存在と思っていた日本の殉教者もイエスを心の拠り所にしていた気持ちは同じだなと思い、今までより親しみがわきました。

殉教者たちが私達を見守り、お祈りしてくださっている感じがしました。

この巡礼で四国のキリシタン史を学び、その足跡をたどることが出来、それによって、各信徒自身の信仰を確かめ、強めることができた有意義な旅でした。

善通寺教会　山本晴香、山本香

赤岡牢跡にて

全国で新司教の誕生相次ぐ

今年、日本の教会は新しい司教の誕生を喜びのうちに迎えている。5月20日に前田万葉大阪大司教が日本人では6人目となる枢機卿に親任され、引き続き、7月16日に大阪玉造カテドラルにて大阪教区補佐司教として、クラレチアン宣教会のホセ・アベイヤ師とオプス・デイの酒井俊弘師が司教に叙階された。

また長い間司教空位が続いていた、さいたま教区にもサレジオ会司祭の山之内倫昭師が新司教に任命され、9月23日に浦和明の星女子学園にて荘厳のうちに司教叙階式が行われた。

また、鹿児島教区では同教区司祭で、日本カトリック神学院院長のフランシスコ・ザビエル中野裕明師が新司教として任命され、10月8日（月、祝）鹿児島市内宝山ホール（鹿児島県文化センター）で荘厳に執り行われた。これにより2月12日に那覇教区司教として司教叙階されたウェイン・バーント師を含め５名の新司教が誕生しています。また、東京教区補佐司教の幸田和生司教の引退が受理され、幸田司教は仙台教区にて東日本大震災の復興支援への取り組みを主に、司牧活動に携わるということです。

枢機卿は、司教の中から教皇が自由に任命し、任期はなく、教皇選出権を持つ教皇の最高顧問である。重要案件について教皇を直接に補佐する「枢機卿団」は、教会全体の日常的職務について教皇を助ける。

前田万葉枢機卿

『典礼奉仕』のために（32）

2018年全国典礼担当者会議報告　その１

テーマ：「信徒による典礼奉仕の共通理解を求めて」

高松教区典礼委員長　谷口広海

毎年、軽井沢のクララ会で行われる「全国典礼担当者会議」が今年も9月4日から6日まで3日間に亘り開催されました。

日本の全16教区から典礼担当者と、関わりが深い信徒、修道者、委員の総勢40名が一堂に会し、今年のテーマに沿って研修と分かち合いを行いました。

日本カトリック典礼委員会委員長である横浜教区・梅村司教の挨拶に続くオリエンテーションの中で自己紹介が行われました。その中で、特に年々、信徒の参加者が増えていることに、信徒による典礼への関わりがより深くなってきている事が伺われます。

今回の研修内容を箇条書きにすると以下のようになります。

Ⅰ

1・典礼における信徒の奉仕職について

2・祭器室（香部屋）係と侍者について

3・朗読者について

4・聖体授与の臨時の奉仕者について

5・司祭不在の時の集会祭儀の司会者について

Ⅱ祭器係について

Ⅲ朗読者について

Ⅳ侍者について

Ⅴ聖体授与の奉仕者について

Ⅵ司祭不在の時の主日の集会祭儀について

以上の項目についての研修が行われ、一つ一つの典礼が表す意味や所作についての分かち合いなどを行いました。

各項目についての詳細については次号から、順次解説掲載を準備しています。

信徒の時代といわれてから久しく、高松教区においても、典礼は聖職者のみに関わるものと、信徒の意識の中に未だ深く根を下ろしているのが現状のように見えます。

信徒一人ひとりによる典礼についての学びから、典礼奉仕への積極的参加が見られるようになることを心から願っています。

司祭召命への道程　高山徹神父が語る

朝祷会四国地区大会

「主であるわたしは　恵みをもってあなたを呼び　あなたの手を取った」（イザヤ書42章6節）

9月24日、第47回朝祷会四国地区大会がカトリック坂出教会にて開かれた。

朝祷会は、プロテスタント教会との分かち合いの場です。福音マーケットの一部分とも、言えます。

参加者は、本部、東京、和歌山から三名、プロテスタント教会は、香川地区から3教会、愛媛地区から1教会、カトリック教会からは、坂出教会、桜町教会の2教会であり、42名の集まりでした。

高山神父様の奨励者としてのお話として、6ケ月前に司祭に叙階され、叙階されるまでの色々な過程が、分かり易く、説明され、牧師さんたちも少なからず感銘を受けられた様子した。

司祭召命への導きの源泉は冒頭のイザヤ書のみ言葉であったとのことです。

高山神父様の家庭は、はじめは、母親のみが信者の家庭であったこと、その環境から司祭に叙階されるまで、種々の迷いや悩みを潜り抜け、特に、故溝部司教の助言も大きな支えとなったことなど、まさに、聖霊の働きによって、高山神父様が誕生した過程をお話しされました。

カトリック教会では、第二バチカン公会議の結果、プロテスタントの各宗派との対話の動きが許され、朝祷会は、次に掲げる「綱領」に基づき、全国各地に発足し、四国内では、現在、香川県、愛媛県の両県内で、活動中です。

朝祷会「綱領」

（1）イエスをキリストと信ずるすべての人々に開かれた超教派の祈りの運動である。

（2）共にキリストの愛に生かされている者たちの一致を求め、福音の前進と主にある平和を祈る。

（3）御言葉を聴き、賛美を献げ、心を合わせて祈り、食卓を共にして交わりを深める。

桜町教会　立浪敏夫

朝祷会四国大会に参集した人びと

熱く語った女性の会・徳島大会

９月１日、鳴門教会において第10回女性の会・徳島大会が開催されました。

諏訪司教様は会の始めに、「今日の福音はマタイ福音書のタラントのたとえ話の箇所で今日にぴったりでした。預かったタラントを、穴を掘って隠すのではなく増やしてください。愛の広がりを祈りましょう」と話されました。

今回のテーマは、社会と共に歩む教会に向けてパート２「教会の宝、喜びをさぐる」でした。昨年いろいろな所で福音マーケットをして見えてきた「教会の良いところ」をテーマ別にまとめた資料をもとに、参加者63名（男性10名）が９グループに分かれて分かち合いを行いました。

今回は、グループで意見をまとめるのではなく、それぞれが自分の中にある思いを整理し、深め、確認することを中心に行われました。

そのために、１・聞く、２・問いかける、３・書く、４・話す、５・沈黙、という宝さがしの５つのポイントを基本姿勢として、人の話をよく聞き、尊重し、沈黙の中で自分と向き合う、という分ち合いでした。

教会の宝　喜びをさぐる
５つの姿勢で分かち合い

それぞれのグループによって、話された内容は様々でしたが、大きな悩みをかかえてこの会に出席された方もいらっしゃいました。

分かち合いの中でその答えは出ませんでしたが、私が印象に残ったのは、乾神父様の「形のあるものに心を縛られない。」という言葉でした。

教会共同体が、それぞれの人の悩みに寄り添うことのできる、気兼ねなく語ることのできる場所であることが大切だということを改めて感じました。

昼食には、鳴門教会の皆様が作ってくださったそば米汁やフルーツ寒天、鳴門名菓をいただき、分かち合いの余韻に浸りながらのひとときを過ごしました。感謝です。

午後からは、それぞれの思いや分かち合いで感じたことなどの発表がありました。

その中で、教会が避難場所になれたらいいな！という話がありました。いつどこで大きな災害が起こるかわからない昨今。地域に生きる人々の心のより処として、人々が集い、喜び、苦しみを分かち合う場でありたい。

何かあった時になにができるか、教会のいいところをどう生かすかが問われています。

そして、司教様のギターの伴奏でテゼの祈りをして閉会となりました。

閉会の挨拶の中で、スティーブ神父様が言われました。

「お昼のお接待のそば米汁がとてもおいしかったので、私はおかわりをしてしまいました。

教会も一度行ったらまた行きたい！と思えるようなところになったらいいと思います。」と。

おかわりをしたくなるような教会になればいいんだな！と納得しました。

おかわりをしたくなるような教会にすることは、簡単なことではないと思いますが、自分に与えられた タラントを精一杯使って、まずは笑顔と希望を届けていきたい！と感じた１日でした。

松山教会　清家由美

鳴門教会でのミサ

外国籍信徒と交流も
丸亀・善通寺教会「教区民の日」

平成30年９月９日（日）、台風21号の去った後も、秋雨前線の影響で大雨警報が発令中の中、諏訪司教様をお迎えして丸亀教会で「教区民の日」の集いを行った。

丸亀教会・善通寺教会の信者が集い、大雨で出席者の数を心配していたが、ミサが始まる頃には外国人信者も含め80名ほどが出席し、諏訪司教様司式でミサから始まった。

ミサが始まる前に、香川地区西讃ブロックの聖体奉仕者、集会祭儀司会者の任命式があり、丸亀教会から竹本孝氏、太田肇子氏、善通寺教会から多田繁夫氏が諏訪司教様から任命証書を授与された。

ミサの中で、諏訪司教様と一緒に来られたウイリアムズ・R・T氏が、諏訪司教様のお説教を同時通訳され、多くのフィリッピンの人達にも理解され、有意義なお話しとなった。

ミサの後は、夫々が持ち寄った弁当を子供達も一緒に司教様を囲んで食べ、珍しいフィリッピン料理も振舞われ、賑やかな信徒会館であった。

食事の後は、日本人グループは聖堂で司教様から「社会の中に生きる教会」についてのお話があり、福音マーケットの中から導き出された、教会の持っている良いところを皆で考え、その後各グループに分かれて分かち合いを行った。

信徒会館では、外国人グループがウイリアムズ・R・T氏を中心とした話しで盛り上がり、午後２時から皆でお茶やお菓子や差し入れの果物を頂きながら、談笑の時間を設け、丸亀教会、善通寺教会、そしてフィリッピン人を中心とした外国籍信徒との交流を深めた楽しい一日であった。

丸亀教会トピックス

丸亀教会では、パスクワル神父様の発案で、信徒全員が名札を付ける様になった。

特に外国籍の信徒には喜ばれ、日本人信者に対しても名前で呼び合うようになり、お互いによりフレンドリーになった。小さな子どもから、大人の信者までが首から名札を吊るし、どこかの会社みたいだけれど大分習慣付けられてきた。

丸亀教会　太田　修

小豆島で香川宗教者平和懇話会

カトリック高松司教区本部事務局長　西川康廣

香川宗教者平和懇話会は２００６年に京都で開催された第８回世界宗教者会議（ＷＣＲＰ）を機に結成した。

同年８月に『ポストコングレスin四国』を開催し、その後香川県宗教界の有志が、３ヶ月ごとに各宗教団体を回りながら懇話会を開いている。

宗教者平和懇話会は、平和構築のために「今、宗教者として出来ることは何か」をモットーに二部構成で会合を開いている。

第一部は夫々の宗教を学び合うこと、そして第二部は懇話会モットーに基づき、合同でできる諸行事や計画を話し合っている。

現在、カトリック教会、立正佼成会、真言宗、浄土真宗（興正派）、浄土真宗（大谷派）、禅宗（妙心寺派）から約15名が参加している。

香川宗教者平和懇話会は巡礼開催も目標としている。バチカン巡礼から始まり、比叡山、スペイン（コンポステーラ）、高野山、長崎五島列島と続き、今回は９月７日～８日に掛けて開催され、小豆島巡礼を計画した。

これまで巡礼は、カトリック施設と仏教界施設を交互に巡礼して来ている。今年は従来の在り方を若干変更し、巡礼一日目は教職者を対象とした小豆島の仏教施設を企画した。

小豆島ミニ版八十八か所の四十番札所に当たる「保安寺」（浄土真宗）を巡礼し、合同平和祈祷会と宗教者対話をメインとした。

そして巡礼二日目は一般参加者を加えて、宗教者平和懇話会の発祥の地の小豆島オリーブ公園の十字架の麓で合流し、合同平和祈祷会を開催した。

十字架の麓で合同祈祷会
高山右近の潜伏地も巡礼

この十字架は、故深堀敏司教時代に、当時の駐日教皇大使カルー大司教をお招きして10㍍強の十字架が建立され、十字架の麓には美しいステンドグラスで飾られたオラトリオ（祈りの家）が建てられている。

ここは小豆島の高台にあり、美しい瀬戸内の海と島々を一望に見渡せる、正に祈りの環境が整った場所である。

雨の中での合同祈祷会ではあったが、立正佼成会、カトリック教会、仏教の順番で平和祈祷が厳かに捧げられた。

今回の巡礼のもう一つの目玉として、２０１７年２月に列福されたユスト高山右近の潜伏地巡礼も企画の中に取り入れられた。

１日目の教職者を対象とした巡礼は10名弱だった関係で、マイクロバスをチャーターして山奥の狭い道を上り、右近やオルガンチーノ神父が小西行長の保護の下に潜伏していた、高山右近ゆかりの地を訪ねた。小豆島の『殿川』と命名された川を遡った所に顕彰碑が建立されている。

そしてこの『殿』は果たして高山右近を指すものかどうか、ますますロマンが広がっていく。

顕彰碑の前に立ち周囲を見渡しつつ、じっと目を閉じて瞑想にふければ、当時の高山右近とオルガンチーノ神父との対話が聞こえてくる思いがした。

２日目は一般参加者を加えると１５０名ほどの大人数に成るため、大型バスはこの場所へ入ることが不可能だったので、合同祈祷会場のオリーブ公園の丘の上を会場に、講師の日向氏（小豆島）から右近の潜伏地など方角を示しながらの説明に、当時に思いを寄せることができた。

その後高山右近の像が建立されている小豆島教会へ会場を移し、日向氏から映像を観ながら右近の足跡を学び、諏訪司教が高山右近の霊性について講話をした。

日本の教会は高山右近の列聖を目指して取り組んでいるが、今回１５０名ほどの諸宗教の方々が、小豆島において高山右近とその霊性を学び、信仰の歩みは異なっていても、大いなる命の源に触れる機会を得ることができたことは、確かに大きな恵みのひと時になったと信じる。

大十字架の麓、参加者全員で平和祈祷を捧げる

教区スケジュール

11月
1日（木）諸聖人
2日（金）死者の日
3日（土）文化の日
4日（日）年間第31主日
6日（火）司祭評議会10:00
8日（木）秋の一日司祭集会in善通寺
10日（土）（第4回）司教座聖堂建設委員会
11日（日）年間第32主日
17日（土）聖エリザベト（ハンガリー）修道女
　宣教司牧評議会役員会13：00
18日（日）年間第33主日「聖書週間」（～25日）
　「世界貧しい人の日」
21日（水）聖マリアの奉献
23日（金）勤労感謝の日、・正義と平和全国大会in名古屋（～25日）
25日（日）王であるキリスト（年間第34週）
30日（金）聖アンデレ使徒
12月
1日（土）教区の将来を考える会13：30
2日（日）待降節第1主日　宣教地召命促進の日 祭壇奉仕者選任式
　in司教座聖堂
3日（月）日本宣教の保護者聖フランシスコ・ザビエル司祭
　一粒会の集い
8日（土）無原罪の聖母マリア
9日（日）待降節第2主日
13日（木）第2回臨時司教総会
16日（日）待降節第3主日
23日（日）待降節第4主日　天皇誕生日
24日（月）クリスマス・イブ 振替休日
25日（火）主の降誕
27日（木）聖ヨハネ使徒福音記者祝日
28日（金）幼子殉職者
30日（日）聖家族　中島町教会 樽谷英賢

西日本豪雨被害の宇和島で奉仕

人と人との協力や優しさ知る機会

9月16、17日に宇和島へボランティアに行かせて頂きました。16日21時30分頃宇和島へ到着。宇和島教会の信者さんがむかえてくれました。

以前に来られた方のボランティア内容をボランティアノートで確認し、明日のために備えました。

17日、朝9時すぎに宇和島社協へボランティア手続きを行い、ひと団体になるまで待つよう指示されました。

高松教区から2名と西条や西予市から来られた方々8名が揃ったところで現地へバスで出発。仕事内容は床下の泥のかき出しでした。

現地へ行くとボランティアのNPO法人「結」さんから泥の掻き出しについての説明を受けました。

泥はすぐ撤去するのではなく少し乾きヒビが入ったくらいのところを取ると土と泥の境がわかりやすいとの事でした。

床下4人プラスNPO法人結さんの、泥をトラックまで運ぶ地上4人で作業を開始しました。

床下は風が通らず暑いので30分くらいに1回休憩を挟み、水分をとりました。

家の持ち主の方も気にかけて下さり、大変な思いをしながら飲み水を持ってきてくださいました。

トラック2台分と土嚢を沢山作り、終了時間の15分前に終わることが出来ました。

ボランティアをされてる方の話を聞くと、以前に来た時は4人でこの作業をした。なかなかハードでしんどかった。どんどんボランティアスタッフが減っている。と話されていました。

テレビのニュースでの情報しか知らず、実際に行ってみると、想像より何倍も大変ということを知る機会となりました。

ボランティアしている間に、人と人との協力する姿勢だったり、優しさ、気遣いを知ることも出来き、自分自身たくさんのことを学ぶことが出来ました。

カトリック新居浜教会　小川麗子

床下にたまった泥運び出す作業に汗

9月17日に、愛媛県宇和島市の吉田町に災害ボランティアに行ってきました。

行った家はスマホの電波が圏外になるほどの山の中でした。横を流れる川が増水して被害にあったということでした。

ボランティアでは、家屋の下にたまった泥を出す作業を行いました。

大量にたまって、カビが発生しているところもありました。住人一人では絶対にできない重労働だと思いました。

ボランティアは現状では人数が足りていません。支援の輪が広がると嬉しいです。

中島町教会 樽谷英賢

京都でネットワークミーティング

去る9月22日と23日に全国のカトリックの青年大会「第35回ネットワークミーティング」が京都の宮津市にある京都府立青少年海洋センター「マリーンピア」で開催され、高松教区の青年は初参加も含めて8名が参加しました。

今回は全国から約170人の青年が集い盛大な活動となりました。

特に私の心に残っているプログラムは2日目に行われた黙想と分かち合いです。

テーマはルカによる福音書5章1～12節の部分です。

①自分とイエス様ってどんな関係。

②ペトロは沖へ出て魚を捕ることを仕事としています。あなたにとっての沖（日常生活フィールド）はどこですか。そこであなたは何をどのようにしていますか。

③イエス様は「あなたは人間をとる漁師になる。」といわれました。イエス様に「声をかけられたあなたはどう変わるでしょうか あなたの何が変わるでしょうか。

④それでイエス様は何を求めていますかという4つの質問を軸として、宿泊施設周辺など自分の好きなところで黙想を行い、分かち合いは決められたグループで行いました。

イエス様とはどんな関係？
青年ら話し合い、祈り、黙想

特に分かち合いでは、自分が今まで、どんな信仰を歩んできたかや教会と自分（イエス様と自分）など様々な観点からグループみんなの話を聞くことができました。

これまで私は同世代と信仰について黙想や分かち合いをしたことがあまりなかったので貴重な経験となりました。

ある方が「人それぞれ考え方は違っていても、祈りの中で一つになれる。」と言われて、同じ年代のなかでしっかりと自分の生き方を全うしている方もいました。

そのあと行われたミサでは、大塚司教様より「ぼーっと生きる」のでなく「未知の世界へあゆみを進める」ことをしてくださいというお話がとても心に響きました。

この言葉をこれからの生活に生かせていければと思います。

次回の第36回ネットワークミーティングは、岡山県のノートルダム清心女子大学一宮校舎で開催されます。多くの高松教区の青年たちと一緒に参加したいと思います。皆さんの参加を期待します。

最後にこの度、ネットワークミーティングの参加にあたり支援をしてくださった高松教区の関係者の皆様、ありがとうございました。

カトリック松山教会　竹田真生

https://otsucle.jp/cf/project/kandal-stueng-toilet.html
または ttps://www.kagawa-u.ac.jp/

このプロジェクトは清水裕子氏（八幡浜教会信徒）がリーダーとして、2017年3月からカンボジア、カンダール州カンダルスタン郡で学校保健室を軸として学校保健システム、人材育成モデルを構築するというJICA草の根事業です。

現地で衛生教育、人材育成を始めたところ、小学校にトイレがない、足りない、壊れている等の状況や32校の小学校のうち3校にのみにしか手洗い場がなく、壊れる頻度も高い状況です。

これはJICAでは対応対象外の内容であるため、徳島大学のクラウドファンディングサイトを拝借して開始されています。

しかし国内で災害が多発し、なかなか寄付が集まらない上、9月20日～12月15日までの短期実施で、見通しさえ立たない状況です。そこで信徒の皆様にも呼びかけることになりました。ご協力を何卒宜しくお願い致します。

クラウドファンディングは、上記ULM上段と、下段から入れます。

郵便振込口座は下記の通り。

口座番号	口座番号
０１６３０	４　６９９３２

加入者名：一般社団法人大学支援機構
通 信 欄：香川大学カンボジアのトイレ増設プロジェクト支援コース

編集後記

今、日本社会は高齢化による社会問題が噴出し、年金、社会福祉、医療での経済負担など多くの不安の中にあります。

これはそのまま、現在の日本のカトリック教会の姿ともいえます。本教区も同様に、高齢化による経済・小教区建物劣化・召命問題等によって、次世代へ負の遺産を残してしまうかもしれ尚瀬戸際に立たされています。レプトン銅貨2枚を捧げた老婆の信仰を黙想し、私たちも今一度信仰の中で真剣に考えるよう促されているようです。（J）

聖ドミニコ宣教修道女会

私たちは、自分を創造しようとするこどもをまなび、護りましょう
暁 の 星 学 園
鳴門聖母幼稚園　高知聖母幼稚園
阿南聖母幼稚園　海の星幼稚園